

**インパクトコンソーシアム
第1回 地域・実践分科会資料
(2024年7月30日)**

事務局

概要

- 地域には、潜在的に活用し得る様々な環境・社会的又は人的資源が存在。こうした資源を活用しつつ地域発で環境・社会課題に対応し、経済・社会基盤の強化を実現していく取組みへの期待は高い。
- 実際に、足許、規模や業種、求める社会・環境的効果や収益水準、成長速度等も多様な企業によるインパクトの創出例が見られつつある一方、地域からインパクトの実現を通じて事業の成長・持続可能性等を実現するには様々な経営・資本戦略等のノウハウが必要で、取組みの実践は決して容易でないと考えられる。
- このため、まずは多様な取組みの浸透・拡大を図るよう、社会・環境課題の解決の視点を取り入れた地域の価値創造等の取組可能性が多岐にわたる点が理解し易い、関心喚起型の議論・取組みが重要。課題意識を持ち易い多様な発信を行い、機運醸成とネットワーク構築を支援し、地域への人材・資金の流れを強化していくことで、環境・社会課題の解決と成長が、様々な工夫の下で相互に補完・強化する好循環の地域発での実現を目指していく。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ プリンシパル 宜保 友理子、龍谷大学教授 深尾 昌峰
- 副座長：一般財団法人社会変革推進財団 常務理事 工藤 七子、
株式会社日本政策投資銀行 経営企画部サステナビリティ経営室長 金谷 真吾
- ディスカッションメンバー（14名）
 - 株式会社静岡銀行 大杉 幸弘
 - 三井住友信託銀行株式会社 金井 司
 - 株式会社UNERI 河合 将樹
 - 一般財団法人日本民間公益活動連携機構 小崎 亜依子
 - 株式会社陽と人 小林 味愛
 - 株式会社Zebras and Company 田淵 良敬
 - 株式会社うむさんラボ 比屋根 隆
 - 株式会社ヘラルボニー 松田 崇弥
 - 日本商工会議所 松本 憲治
 - 北九州市 森永 康裕
 - 八十二インベストメント株式会社 山口 哲也
 - 公益財団法人東近江三方よし基金 山口 美知子
 - UntroD Capital Japan株式会社 山家 創
 - ベータ・ベンチャーキャピタル株式会社 渡辺 麗斗
- メンバー：地域・実践分科会メンバーに応募のあったコンソーシアム会員（126）

年間計画のイメージ

- 各回、以下のようなゲストスピーカー（2～3名）にプレゼンいただき、ディスカッションメンバー等による議論を行う。原則オンライン開催、2時間程度。

深尾座長・工藤副座長	宜保座長・金谷副座長
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 【地域課題とインパクトの概論】 インパクトスタートアップやゼブラ企業が捉える地域の社会課題と、インパクト拡大のための資金・人材面等の課題等 ✓ 【地域企業のインパクトビジネス最前線】 インパクトとの関連性が見えにくい老舗企業や中堅企業が捉える地域の社会課題と、事業を通して取り組む意義 <p>※ 24年7月下旬、9～10月頃に開催予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 【地域内の関係者によるインパクトの創出支援】 地域VCや地域金融機関等が、地域発のインパクト創出を支援する際の創出意工夫や課題等 ✓ 【地域外の関係者との連携によるインパクトの創出】 地域外のVCや大手企業等が、地域のステークホルダーと連携し、地域事業を支援する際の意義や留意点等 <p>※ 24年11月頃、25年2月頃に開催予定</p>
<p>【フィールドワークの実施】 ※ 24年12月、25年3～4月頃に実施予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内外の関係者が連携・協働してインパクトの創出に取り組む地域（中小企業庁「地域の社会課題解決企業支援のためのエコシステム構築実証事業」の選定先も含む）の関係者と、エコシステム形成や関係者の協働のあり方等を議論 	

【事例や各回の議論を下記の通り整理し、成果物等の作成・発信】

- 多様な地域発のインパクトについて、ケーススタディやフィールドワークでの議論を通じて、**例えば、地域内外の幅広い関係者間での共通理解を醸成し共感・協働を得る方法論や、インパクトを事業評価に加味する視点、複層的なファイナンスのあり方**など、共通する視座等を抽出し、成果物として発信
- 各回の議論やフィールドワークを通じて共有された**地域における創意工夫やプレーヤーの取組み・想い等**については、他の市場参加者の取組みの参考となるモデル性のあるケース等として、オーガナイズングデスクがブログ等の一般に分かり易い形式で、タイムリーに発信することを検討
- 議論の気づきをわかりやすく伝えるため、座長より、議論で印象に残った創意工夫やプレーヤーを各回の総括の中で紹介

スケジュールのイメージ

□ 各分科会の**具体内容やスケジュールは、分科会ごとに主体的・柔軟に検討・対応**することとしつつ、**来年3月を目途に、その時点までの議論の状況や今後の見通しなどを、運営委員会で報告**いただき、翌年度の対応につなげていくことが考えられるのではないかと。

中間報告

年間イメージ

※あくまでイメージであり、状況を見ながら柔軟に調整

		2024										2025					
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
イベント等																	
総会		5/14 第1回															
運営委員会		第4回										第5回			第6回		
アドバイザー等		グローバルアドバイザー										アドバイザー委員会					
分科会	データ・指標	インパクトに関するデータやデータベースの現状・ニーズ等を把握しながら、議論を進める															
	市場調査・形成	論点ごとに議論を積み上げ															
	地域・実践	地域企業や金融支援の具体事例を通じ、企業評価のあり方等を議論															
	官民連携促進	官民連携の事例共有や自治体とスタートアップの連携に向けた議論を進める															

(参考) コンソーシアムについて

有識者等によりアドバイス等を受ける機構として、それぞれ以下のような目的で、「アドバイザリー委員会」、「グローバルアドバイザリーパネル」、「オーガナイズングデスク」の3つ設置し、メンバー間及び対外機関等との円滑かつ実効的な議論を進める

総会

- 事業方針と運営の基本的事項を決定
 - 役員（会長・副会長）の選任
- ※状況に応じ、幅広いメンバーが参加するアドホックのオンラインセッション等も検討
※若年層による議論や意見発信を行う場も検討

運営委員会

- 総会日程、分科会の設置・調整・進捗確認
- その他運営事項の決定

アドバイザリー委員会

年1回程度
国内の地域課題を含む
コンソーシアムの運営状況
等に助言

グローバルアドバイザリーパネル

都度開催
海外での取り組みを紹介し、
日本における活動の方向性
についてディスカッション

分科会

- 会員に分科会メンバーを広く募集
- 効果的な議論推進のため、議論を取りまとめる「座長」、座長を補佐し資料等の集約を中心的に行う「副座長」、集中的に議論を行う「ディスカッションメンバー」等を設定

オーガナイズングデスク

分科会に対し、グローバルな専門的知見に基づくアドバイスを提供し、関係者の意見収集を踏まえた多様な目線感で民間の議論を喚起

1. データ・指標

2. 市場調査・形成

3. 地域・実践

4. 官民連携促進

事務局

- 国が支援を行いつつ、各機能を委託（会議運営、イベント運営、ホームページ作成等）